

世界へ松濤中生 (Achieve a role in the global community)

自立 (Grow) 尊重 (Respect) 創造 (Create)

# 学校だより

■HP Address

<http://academic1.plala.or.jp/shoto/>

■発行 松濤中学校  
■代表 立松 1-20-4  
■電話 03-3469-2451, 2452  
■発行責任者  
校長 斉藤 茂好

NO. 4

7/7

平成28年度



## 今月の内容

【1面】

■PHOTO SKETCH  
ミクロネシア  
交流会

■校長メッセージ  
プロの仕事

【2面】

■校長メッセージ  
疑問が始まり

## プロの仕事

もうまもなく夏休み。これまでを振り返ってみて悔いが残るようならば、この夏休みに本気でチャレンジして欲しいと思います。では、何にチャレンジするのでしょうか。皆さん一人一人にとってチャレンジするものはそれぞれ違うと思います。勉強、部活、趣味や家の手伝い等、何でもかまいませんが一つだけ条件があります。それは、身の回りの小さなことでいいから、今までできないと思っただけに挑戦することです。小さなことを、馬鹿にしないで、コツコツとできるまで続けていく。この習慣を身につけることができれば、必ず新しい自分、できないことにチャレンジする自分に変わることができます。

「プロの仕事」について、次のような言葉がありました。

『苦しくて逃げ出したくなったとき、仕事からは逃げられる。でも自分からは逃げられない』

『まずは今日の仕事に勝利する。身近な目標こそ大切にする』

『仕事がうまくいく、いかないには運もある。しかし、努力しないですぐにうまい人はいない』

『コツコツやっても…と思う前にコツコツやれ。その先に成功がある』

この中の“仕事”という言葉、例えば“英単語の勉強”や“部活の練習”、または、もっと身近な生活の目標である“早起き”や“皿洗い”に置き換えてみると、君たちの具体的なチャレンジの目標が立てられると思います。

さらに

『評価されなくても気にしない。いつか必ずその努力は役に立つ』

『周りや社会は変えられない、変えられるのは自分だけ』

『引き受けた仕事にはベストを尽くす。どんなものでも何があっても』

そして最後には、

『全力を尽くした仕事なら、失敗しても無駄じゃない。笑うやつは放っておけ!』

今日からまた、新しいスタートです。皆さんには与えられた今という時を、悔

いが残らないように、部活・勉強・その他の目標に向かって確実に踏み出してほしい。それは私にも、松濤中の先生方一人一人にも言うことです。お互い、ベストを尽くして悔いのない夏休みを過ごしましょう。

## 疑問が始まり

家庭・学校・地域の連携ということが至る所で語られていますが、お互いを結びつける接点が貧弱であると日頃から感じています。最大の原因は、それぞれの自己主張に偏りがあり、そのために情報を共有できず、結果としてお互いを分かり合えていないということです。自分はこのことができるが、このことはできていない。あなたならできると思うがやってもらえないか。そんなコミュニケーションができることがスタートです。しかし、誰もが、できているという情報しか発信しないので、手をつなぐ隙間がありません。できていないことを自発的に見せ合わない限り、連携が進むことはありません。限界を弁える余裕が求められます。

そんな中、必要の重要度から言えば、とてもポイントが高いにもかかわらず、きっとできていない、きっと不十分なんだろうと想像されるのが家庭学習です。宿題は学校の学習の延長です。家庭でなければできない家庭学習とは言いがたいものです。では、家庭では何をすればいいのでしょうか。学習において最も大事なことは、「なに」という疑問です。その後に、「なぜ」、「どうして」という疑問が続いていきます。疑問を持つことは、知りたいという欲求を育て、学ぶ意欲を高めます。知る喜び、学ぶ喜びは、疑問を持つという下ごしらえによって作り上げることができます。しなさいと言われてする学びからは、分かったという感動は生まれません。

数学の勉強で、小数を習います。半分は0.5となります。このときの点を小数点といいます。分数を習います。0.5=1/2です。このときの何と言うのでしょうか？疑問が生まれました。学校で先生に聞いてみようと思いが生まれます。答えは括線(かっせん)といいます。先ず疑問を持って、次に答えが分かると、そうなんだと少しうれしくなります。括弧という言葉がありますが、弧で括(く)くるということです。弧は曲がっていますから、括弧は周りから内側を守るような機能を発揮します。括線とは線で括ることです。分子の1と分母の2、2つの違った意味の数字を線で括っているのです。真っ直ぐな線ですから、どちらにも肩入れせずに、両方を大切にしています。線は線引きするというように違ったものを区分けするという機能があります。しかし同時に、結びつけるという機能も持っています。7月19日を、7/19と表記するような場合です。そうかと解決できたらうれしくなります。

学力とはつけてもらうものではなく、自らつけるものです。家庭での暮らしの中には、たくさんの疑問が埋まっています。知に対する疑問と興味を日常生活の中で掘り起こしてください。子供の疑問に答えられたら、一流の学者になれると言われることがあります。子供が疑問を持つことを支えること、身近にある疑問を見つける力を育てることが、家庭における学習のポイントであると思っています。疑問があるから学びが楽しくなる、その導きが考える力を育てることになると知っていただけたら、幸いなのですが…。

## 伐採します！

正門から玄関にいたる途中、威風堂々と存在感を誇る「くすのき」の大樹。開校以来、松濤中生を見守ってきました。しかし、成長し過ぎたがため、緊急車両や運搬車の通行の妨げになっています。何より台風等の自然災害時、倒壊の危険性が高く、今夏期休業中に伐採する運びとなりました。

